

パブリックビューイングで応援 阿部選手が平昌パラで入賞

本町出身で平昌パラリンピックに出場した阿部友里香選手が、3月18日に行われたクロスカントリースキーの4×25km混合リレーで4位入賞を果たしました。10日には町中央公民館でパブリックビューイングが行われ、約70人が観戦。会場に用意されたスクリーンには競技の様子が映され、訪れた人たちはスティックバルーンを手に行方を見守りました。この日出場したバイアスロン競技では、惜しくも入賞を逃し9位。しかし、世界に挑戦する彼女の姿に惜しめない声援が送られました。
※競技結果は、町ホームページに掲載しています。



夢に向かって45人が巣立ち 山田高校で卒業式行われる

旅立ちの季節、3月。町内各地で卒業式、卒園式が行われました。1日には、山田高等学校（及川研一校長）の3年生45人がそれぞれの夢に向かって堂々と巣立ち。及川校長から一人一人に卒業証書が手渡されました。在校生の佐々木菜祐さん（2年）が「これから始まる先輩方の新たな長い旅が、充実したものになることを祈っています」と送辞。答辞では卒業生の上沢りえさんが「この町の復興に貢献できるようにがんばります。在校生の皆さんもここで多くのことを学び成長してください」と話しました。

ごっとな会の郷土菓子作り体験 懐かしの味を手作りで

2月24日、まちなか交流センターで郷土菓子作り体験が行われました。織笠の白石集落のお母さんたちで構成する「ごっとな会」が主催し、25人が参加。今回作ったものは、せんべい餅とひゅうずという昔懐かしの味。食べたことはあるけれど、作ったことはほとんどないという参加者に、講師の中村あづ子さん（白石集落農業生産組合）は丁寧に作り方を伝授。参加者らは餅の茹で加減などに悪戦苦闘しながらも、出来上がった郷土菓子に満足げな表情で舌鼓を打っていました。



船越小6年生が防潮堤へメッセージ 復興への思いと感謝込め

3月7日、船越小学校（千葉浩之校長）6年生19人が防潮堤にメッセージや絵を描きました。これは復興教育の一環として行われたもので、キャンバスになったのは、復旧工事が進む高さ約12メートル、全長約580メートルの浦の浜防潮堤。児童らは色とりどりのペンキや油性ペンで、町の復興や工事関係者への感謝の気持ちを表しました。同校6年の阿部太一君は児童代表あいさつの中で「新しい家、学校、道路ができてうれしい。将来は山田町のために働きたい」と話しました。



町のわだい

今月の題字 佐々木 蓮君 (船越小4年)



“あの日” から7年を迎え 東日本大震災追悼式を挙



発災から7年を迎え、町中央公民館で「東日本大震災・大津波 山田町犠牲者七周年追悼式」が執り行われました。式には遺族、関係者合わせて約400人が列席。午後2時46分の地震発生時刻に合わせて黙とうを行いました。その後は、遺族や来賓、一般参加者などによる献花が行われ、震災犠牲者を悼みました。佐藤町長は式辞の中で、犠牲者と遺族に対して哀悼の意を表し「本町の復興は発展期へ進もうとしている。『ふるさと山田』に暮らす皆さまが安心して暮らせる町となるよう、復興の完遂へ向け全身全霊をかけて取り組む」と固く誓いました。

弥生灯火会で犠牲者を悼む 祈り、思い込め火を灯す

山田町社会福祉協議会とやまだ夢プロジェクトが主催する弥生灯火会が3月11日、大沢地区で行われました。震災後に毎年行われ、ことしで7度目の開催となりました。さまざまなメッセージを記したペットボトルを使った夢明かり。火を灯すと「ありがとう」の言葉が浮かび上がりました。また、犠牲者への思いや祈りの言葉を書き込んだ灯籠約200個を山田湾に流し追悼しました。参加した山田高校生徒会長の佐々木茉祐さん(2年)は「『ありがとう』は支えてくれた人へ伝えられなかった言葉。多くの支援に感謝したい」と思いを伝えました。

